

「Eye-Con360」を開発

エイト日本技術開発（岡山県岡山市、金声漢社長）は、全天球写真と3Dモデルを簡単に組み合わせ、現地のイメージを視覚化する新システム「Eye-Con360」を開発した。従来のBIM/CIM

の3D画像は、作成に多大な時間と手間を要し、そのデータ容量の大きさゆえに、政府機関や自治体の管理者に提出してもPCで開けない場合や、専用アプリが無い、操作方法が分からないといった問題が生じていた。また、セキュリティの観点から、外部サーバーやクラウドサービスにアクセスできないケースも多く、クラウドビューアーを利用するには制限がかかることもあった。これらの課題を解決す

るため同社は、きもと（三重県いなべ市、小林正一社長）と共同で、全天球写真と3Dモデルを簡単に組み合わせ、プレゼンテーションできる新システムを開発した。このシステムは、今年から本格運用が開始される予定だ。同システムの特徴は、軽量のデータ容量と直感的な操作性にある。アイ

コンやコマンドを最小限に抑えることで、複数の計画案を登録しておけば、フィルタリング機能をオン・オフするだけでシーンを簡単に切り替えられ、初心者でも3Dモデルを全天球写真にスムーズに配置できる。また、クラウドや外部サーバーを使用せず、無償で提供されるビューワーステムにより、専用アプリなしでも確認できる点も大きなメリットだ。ユーザーは、計画対象地点で複数の全天球画像を取得・登録しておけば自由に選んで3Dモデルとリンクすることができ、さらに、アイコンで3Dモデルの配置位置、サイズ、回転、伸縮を調整できる機能も搭載されている。加えて、日照権に関連する問題を考慮し、新設構造物における太陽の位置や日光の強さによる影の反映が可能。これによ



「Eye-Con360」の画像



葛浦迫氏

インフラ技術グループの葛浦迫正之研究リーダーは「このシステムは、ユーザー視点を徹底的に追求し、新設設計や計画初期段階での高度なプレゼンテーション、予備設計、災害復旧計画、架設計画、仮設備計画などに非常に有効である」と述べている。